

天理に戦争があった

目次

第1章 特攻と天理 本土決戦の中心に その1 その2

第2章 もともと何のための飛行場だったのか

第3章 だれが飛行場を作ったのか

第1章 特攻と天理 本土決戦の中心に その2

◎7月18日 ゼロ戦部隊が大和基地に

2015年8月20日の「毎日新聞奈良版」に紹介されたもう一枚が、次の写真です。



7月9日の「土佐沖航空戦」を戦った生き残りの飛行機と乗組員は、それぞれ元の航空基地にもどって行きました。大切な中国・朝鮮と日本の間の海を守る任務があったからです。

7月18日、入れ替わりに茨城県ひゃくり百里はらが原基地からゼロ戦部隊が大和基地にやって来ました。



◎戦闘308部隊とは

戦闘308部隊とよばれるこの部隊は1944年6月、太平洋の重要な地点であるサイバ

ンの戦いに参加した部隊でした。サイパン島をめぐる戦いでは、若い多くの兵士が帰らぬ人となりました。全滅に近い状態になっていたのです。

しかし、戦闘308部隊は海軍を代表する「えり抜きのゼロ戦部隊」とされていたため、若い兵士の操縦訓練に時間が使われ、四国・愛媛県の松山基地をふりだしに、九州・鹿児島県の笠野原基地、千葉県^{香取}の香取基地、茨城県の百里が原基地などで訓練を積み重ねました。サイパン島沖合での大敗から約一年、やっと一人前の航空隊として大和基地にやって来たのでした。



↑ 森継正治さん(308部隊)提供

◎第3航空艦隊司令部をまもる

戦闘308部隊に命じられたことは、本土決戦の中心地になる大和基地をまもることでした。1945年6月、沖縄の戦いが終わると、四国と本州をまもる海軍の第3航空艦隊司令部が千葉県木更津基地^{きさらづ}から奈良県大和基地に移って来ました。

奈良県のだれもが知らない間に、天理市は「本土決戦の中心地」になっていたのです。アメリカ軍が関東平野に上陸してきても、九州に上陸してきても、どちらにも対応できる日本の中心だったからです。



← 竹之内町の司令部前にある戦闘指揮所

◎8月14日 琵琶湖上空の戦い

8月14日、アメリカ軍のB29が大阪にある武器工場を爆撃にきました。

また、B29をまもる多くの戦闘機をむかえうつため、大和基地にあったゼロ戦が出撃をしました。大和基地のゼロ戦が、本格的に使用されたのでした。

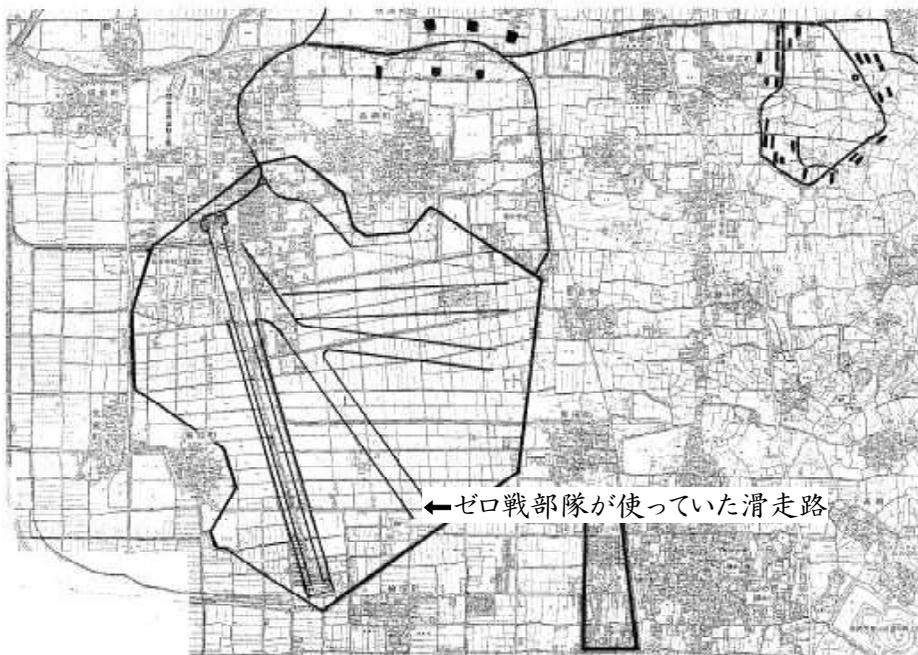
○森継正治さん（長柄町・戦闘308部隊通信員）の証言



↑ 森継さんはこの中で無線機
を使っていた

岸田町の田んぼの中にある戦闘指揮所(左の写真)でゼロ戦の隊員と無線で交信をしていた。ゼロ戦部隊が使っていたのは、現在のかわら工場の前あたりから長柄運動公園にむかう北西方向の土の滑走路だった。」

「8月14日の戦闘で帰って来なかったゼロ戦もあった。一人乗りの戦闘機は無線電話を使っていた。今まで話していたのに、ツーと通話が切れると、うち落とされたということだった。」



←ゼロ戦部隊が使っていた滑走路

◎ 8月15日 「総攻撃」

終戦の日として知られている8月15日は海軍航空隊にとって夜明けからとても緊張した一日でした。

「房総沖航空戦」の命令が出ていたからです。戦闘308部隊と共に訓練を重ねてきた他の部隊も千葉県・房総半島沖にいるアメリカの軍艦への攻撃に出ようとしていまし

た。8月15日朝早くから戦闘が開始され、すでに多くの若者が亡くなったり傷ついていた。

ところが、大和基地の戦闘308部隊だけには出撃の命令が出ていませんでした。アメリカ軍の上陸にそなえて司令部をまもる役割があったからと考えられています。

◎写真はいつ写されたのか



多くのゼロ戦がならば写真は1945年10月に天理にやって来たアメリカ陸軍によって撮影されました。よく見ると、ゼロ戦のプロペラは取り外され、風でとばされないように、翼を地面にロープでつなぎ止めてあります。戦闘機・爆撃機だけでなく練習機も合わせると百数十機もの軍用機がアメリカ軍に引き渡されました。そんなにたくさんの飛行機が周辺の森や林の中にかくされていたのです。上の写真をよく見ると、「第1章その1」最初のページで紹介した「零式輸送機」もゼロ戦のはるか後ろに白い機体をのぞかせています。

◎ 練習機だけが飛んでいた飛行場？

今まで天理の飛行場というと、

「オレンジ色にぬられた練習機が、ちらほらと飛んでいるだけ」

と言われたり、

「奈良県に戦争はなかった」

「奈良県には重要な文化財があったから爆撃されなかった」

など、天理も奈良県も戦争に関係がなかったと思われてきました。

しかし、だれも知らないうちに戦争の中心が奈良県の、しかも天理にやって来ていたのです。天理から飛行機に乗って出撃していった若者の多くが亡くなり、空襲で亡くなった人もいます。天理の歴史にも書かれていない戦争。当時のことを覚えている人の話を聞いてみるのも大切なことではないでしょうか。

次回第2章は、「もともと何のための飛行場だったのか」についてのお話です。オレンジ色にぬられた2枚羽根の練習機と空をめざした若者たちについて学習します。